

都立青山高等学校 令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 名 称： 東京都立青山高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局構成： 副校長、経営企画室長
- (3) 内部委員構成： 校長、副校長、教務部主任、生徒保健部主任、進路部主任、DX 探究部主任 広報部主任 3 学年主任 計 8 名
- (4) 協議委員構成： 外部有識者 1 名、教育関係者 1 名、地域団体代表 2 名、同窓会代表、後援会代表、保護者代表、必要に応じて校長が指名する者 計 10 名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）

第1回 令和 6 年 6 月 29 日（土） 内部委員 8 名、協議委員 9 名	・ 令和5年度学校経営報告・令和6年度学校経営計画 ・ 学校運営連絡協議会実施報告及び学校運営連絡協議会の趣旨説明 ・ 各分掌主任から年間計画
第2回 令和 6 年 11 月 16 日（土） 内部委員 8 名、協議委員 9 名	・ 4 月からの学校運営、各分掌主任からの経過報告 ・ 外苑祭、夏季部活動合宿報告 ・ 学校評価アンケートについて
第3回 令和 7 年 2 月 15 日（土） 内部委員 8 名、協議委員 10 名	・ 学校評価、授業評価、生徒実態調査等の結果報告 ・ 12 月からの学校運営、各分掌主任からの経過報告 ・ 年間報告

(2) 評価委員会

第1回 令和 6 年 11 月 16 日（土） 内部委員 2 名、協議委員 1 名	・ 学校評価の基本方針の確認、学校評価の観点・項目、内容の検討
第2回 令和 7 年 2 月 15 日（土） 内部委員 8 名、協議委員 10 名	・ 学校評価及び授業評価アンケート集計結果の分析・考察、意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 評価の項目

- ア 生徒： 本人の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- イ 保護者： 子供の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- ウ 地域： 学校と地域の活動、関わりについて
- エ 教職員： 生徒の学校生活と家庭生活、学校の教育活動

(2) アンケート調査の実施時期、対象、規模

- ・ 実施時期： 令和6年11月下旬から令和7年1月上旬までの間
- ・ 対象・規模： 生徒・保護者 各 835 人、教職員 50 人、外部委員 10 名
- ・ 回答率： 生徒 85.4% (713 人)、保護者 80.4% (671 人)、教職員 100% (50 人)、外部委員 100% (10 名)

(3) 主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、
ライフ・ワーク・バランス

(4) 評価結果の概要

【全体】

保護者や地域の皆様から、感謝・激励の言葉を多くいただくとともに、保護者からは、設備面を中心に多数の御意見をいただいた。学校で過ごす時間の多い生徒・教員からは、意見や要望がより具体的となり、学校の満足度をより高次にするための提案がなされた。

【保護者】

保護者意見については、生徒本人や HP、行事、保護者会等での情報に関して、感謝の意から改善を求める御意見まで幅広く見受けられた。特に学習指導を中心に行事・部活動など「三兎を追う」を実践し、成長する我が子の姿に対して学校への感謝を示していただいた。一方、空調・トイレ・グラウンドに関することは、相変わらず御意見としていただいている。空調に関しては、今年度は個別空調への切替のための設計を行い、令和7年度に着工、9年度には工事完了予定で進めている。トイレについても少しずつ改善を図ってはいるものの、全面改修などの抜本的な解決には至っていない。

また土曜授業が多く、生徒の負担が大きいという意見や、外苑祭でのチケット配布方法がわかりにくいという意見も見受けられた。少数ではあるが、授業内容や教員の指導力の差について指摘する意見もある。入学当初は子供を塾に通わせるか悩む保護者が多かったが、本校の指導体制や、20時までの自習室の活用事例から、学習については学校に任せられるという意見もあった。

【地域】

地域の意見からは、おおむね高評価をいただいた。コロナ期間に中断となった地域との連携事業について、ある程度再開できていることや、生徒達が間近で活躍する姿を肯定的にとらえていただいた。一方、学校を評価するには、情報が少ないという御意見もいただいた。学校が地域と共にある以上、地域連携をより推進することは必須である。

【生徒】

生徒からの意見では、素晴らしい仲間とともに学習・部活動・行事の三兎を追い、充実した学校生活を送れていることが多く寄せられる一方で、よりよく過ごすために設備面の環境整備や、授業や行事についての細かい改善要望などもみられた。保護者と共通するものも多くみられた。

【教員】

教員については、気付き、意見が圧倒的に多く、指導方針、生徒との関わり、カリキュラム、設備、働き方等、多くの教員が課題意識をもっている事案がそのまま提示された。また、生徒に対する教科指導、進路指導について、教師の考えが必ずしも一致していないのではないか、という意見も見受けられた。自由に意見が言えること、様々な意見が出ることは肯定的にとらえたいが、教員によって指導に差が出ることをのこさないよう、意識の統一、組織的な指導体制の強化に努める必要がある。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ・施設面について、都立という条件でできること/できないことがある。すぐにはできないことに対して対応していないと言われても困るが、その辺りをどこまで説明していくかが重要。
- ・学校広報のために SNS を活用するのはよい。種類についても引き続き検討が必要。
- ・熊野神社でのボランティア活動など地域連携に感謝している。地域連携活動は引き続き密にしていきたい。
- ・SNS や AI が普及してきているが、インターネットから遮断された状態でどれだけ取り組めるかも大切。
- ・港区はそもそも小学校卒業生の 50%が私立中学へ進学する。さらに区立中学校も選択性で施設等に関しては非常に厳しい競争にさらされている状態。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）成果

様々な立場から評価や意見をいただくことで、これまで気付かなかった課題や問題点、改善点が把握できた。学習指導については、満足の回答が多くまた進学実績も進学指導重点校としての責務を果たしていることから、本校の取組が評価されている。自由記述アンケートに見られる意見要望、提案についても、優先順位を付けつつ、対応策を令和7年度の学校経営計画に明記し、真摯に取り組んでいく。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

- ア．生徒の実態に応じた教育活動の展開
- イ．施設の改修と美化
- ウ．授業力の更なる改善
- エ．広報活動の充実

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- （1）トイレの悪臭対策、個別空調の設置拡大、グラウンドの整備等、教育環境の整備を一層推進する。
- （2）大学入試改革を見据えた自校作成問題の継続、校内学力テスト、定期考査の改善及び目標値を設定し、進学実績の一層の向上を目指す。若手・中堅の人材育成、課題のある授業者への指導を計画的に実施していく。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合 10名回答

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からな い	無回答
10	0	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回